青少年育成センターだより

第１５２号　２０２３．２．１

防府市教育委員会生涯学習課
青少年育成センター
０８３５－２３－３０１３

箱根駅伝を見て思うこと

今年、１月２日、３日に恒例の箱根駅伝が行われ、テレビでご覧になられた方も多かったのではないでしょうか。「練習の成果を発揮しよう」「タスキをつないで自分の役割を果たそう」「走れない他の仲間のために走ろう」等、様々な目的を達成するために必死で走る選手たちの姿から、勇気と元気をもらった方も多かったのではないでしょうか。

大会の翌々日の新聞の記事を紹介しましょう。

・・・中央大の監督に就任した１６年、東京都日野市にある陸上部の寮を訪れた時は、雑然とした玄関や共用スペースに驚いた。掃除も管理もできていない有り様に、自身も寮に住むことを決め、選手と食事を共にした。選手を朝練に行かせた後、主務や故障中の選手たちと一緒に寮や倉庫の掃除整頓をした。時間を守らず練習中も緊張感がない選手たち。「同好会の方がちゃんとやっているくらいでした」。競技者としての文化を根付かせるため、鬼になった。門限のない日を月一回に減らすなど、生活面から厳しく指導した。だが、１６年６月の全日本大学駅伝関東地区予選は１７位と惨敗。危機感の無い上級生の様子に、１年生を主将に据える荒治療もした。１６年１０月の箱根駅伝予選会は１０位の日本大に４４秒届かず、最多１４回の総合優勝を誇る中央大の連続出場は８７回で途切れた。「強烈な出来事でした。歴史を途絶えさせてしまったという思いと同時に、（全日本大学駅伝予選の１７位から）よくここまで上がってきたという思いもありました」。就任からわずか半年、立て直すには時間が足りなかった。・・・

・・・就任から約３年がたった。時間を守る、あいさつをする、早く寝て体を回復させる。選手たちに陸上中心の生活が根付いてきた頃、寮を出て自宅に戻った。「選手が『自分たちのチーム』だと思えるように、少し手を離そう」。選手に任せる部分を徐々に増やし、議論して選手のやりたいことを引き出し、「一緒に歩む」形で指導するようになった。・・・

２０２３年１月５日「毎日新聞」

この記事から、組織（個人でも）が成果を出すための秘訣が読み取れます。

「あいさつができる」「掃除ができる」「時間を守る」が大切なことだと教えられます。よく考えてみるとこれらの３つのことは普通のこと、当たり前のことです。あいさつをすれば、人とのコミュニケーションがうまくいくようになります。掃除ができていれば、環境が整い、気持ちが整います。時間を守れば、みんなで一斉に活動できるようになります。当たり前のことですが、これらのことができるようになると個人が変わり、組織が変わってくるようです。

今何かを成し遂げたいと願っている組織（個人）がありましたら、３つのこと（**「あいさつができる」「掃除ができる」「時間を守る」**）ができているか点検してみてください。この３つのことができるようになると目的を達成することに一歩近づくのではないでしょうか。

文責＝青少年育成センター指導員　　藤村